

都市再生整備計画 事後評価シート  
鶴来地区

令和3年3月

石川県 白山市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	石川県		市町村名	白山市		地区名	鶴来地区			面積	267.8ha		
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	473.6百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(〔都〕鶴来本町水戸町線整備、表参道乗り入れ道整備)、地域生活基盤施設(案内誘導サインの設置、駐輪場の整備、旧加賀一の宮駅周辺整備)、高質空間形成施設(市道三宮町7号線整備)、既存建築物活用事業(旧加賀一の宮駅サイクリングターミナル整備)										
		提案事業	事業実施効果調査(事後評価)、まちづくり活用推進事業(サイクルツーリズム実証実験)										
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	道路(〔都〕鶴来昭和通り線整備)		他の事業を優先的に整備し、当該事業は令和2年度以降に見送るべきと判断し、事業削除				影響なし				
		提案事業	まちづくり活用推進事業(まちなみ景観整備事業)		別事業に行うことになったため削除(関連事業へ移行)				影響なし				
			まちづくり活用推進事業(周遊バスルートの整備)		別事業に行うことになったため削除(関連事業へ移行)				影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(市民広場整備)		本計画の指標に好影響が見込まれると判断し、事業追加				指標「まちなか」とを歩き来する参詣者数」の数値目標を830人/12hrから832人/12hrに上方修正。				
		提案事業	-		-				-				
	交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
変更		なし		-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	空き店舗の活用件数	件	3 (過去5年間)	H26	5 (事業期間内5年間)	H31	-	21	○	あり なし	地区内での道路整備や魅力的な空間整備等の実施のほか、サイクルツーリズムの推進などの地域活性化の取組みも相まって、空き店舗の活用件数増加につながった。	令和3年5月
	指標2	キャニオンロード利用者数	台/12hr	182	H26	190	H31	-	344	○	あり なし	旧加賀一の宮駅サイクリングターミナルや自転車道の延伸、駐輪場の整備とあわせてサイクルツーリズムの推進により、キャニオンロードの魅力と注目度が高まり、利用者数増加につながった。	-
	指標3	“まちなか”とを歩き来する参詣者数	人/12hr	812	H26	829	H31	-	1,825	○	あり なし	旧加賀一の宮駅周辺整備や案内誘導サインの設置などにより、白山比咩神社周辺に訪れた人々をまちなかへ誘導する仕組みが創出され、まちなかとを歩き来する参詣者の増加につながった。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標	レンタサイクル利用者数	人/年	500	H27	/		-	1,300	/	/	旧加賀一の宮駅サイクリングターミナルや自転車道の延伸、駐輪場の整備とあわせてサイクルツーリズムの推進により、レンタサイクル利用者数増加につながった。	令和3年5月
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧加賀一の宮駅舎が昭和初期の近代和風建築の好例として貴重であることが認められ、国の登録有形文化財に登録された。</li> <li>・旧加賀一の宮駅及びその周辺整備によって、路線バスの待合環境やトイレ利用の利便性が向上した。</li> <li>・表参道乗り入れ道の整備により、表参道周辺へのアクセシビリティが向上した。</li> <li>・案内誘導サインの整備によって、地区内の回遊性が向上した。</li> <li>・(都)鶴来本町水戸町線整備により、廃線数で分断された東西市街地が一体化され、地域住民の利便性が向上した。</li> </ul>												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-		
	住民参加プロセス	鶴来まちづくり協議会を通じた住民意向の反映				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後とも鶴来まちづくり協議会の場を通じて住民意向を反映したまちづくりを推進していく。		
	持続的なまちづくり体制の構築	鶴来まちづくり協議会のもとの新たなプロジェクトチームの設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 地域住民主体のまちづくり活動を市が引き続き後方支援していく。		

※ 本事後評価は、事業の年度繰り越しにより、令和2年度末時点での評価を行ったものであるが、事業効果は事業完了後に発現するものと捉え、目標値を据え置いて評価を行った。

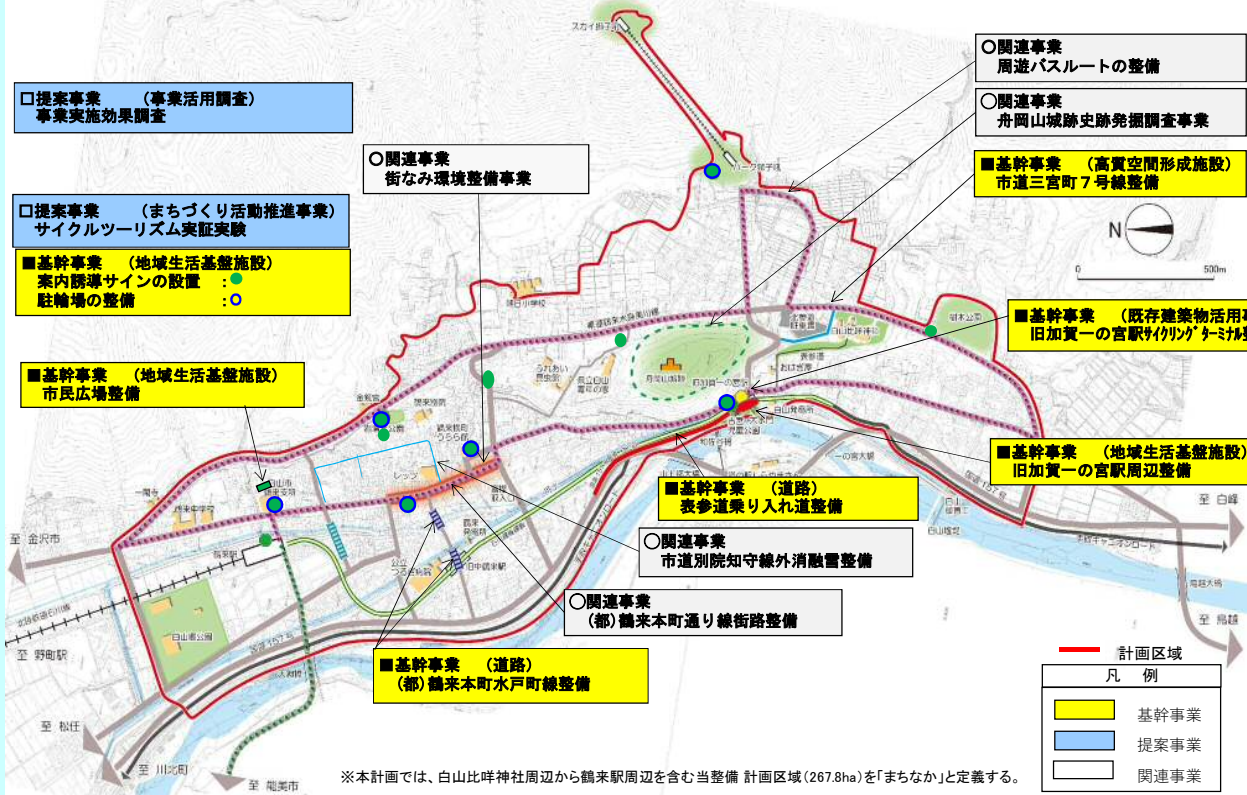
## 様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値			
目標									
大目標: 観光拠点から「まちなか」への来訪者の誘導と、住民が歩いて楽しい「まちなか」の仕掛けづくり		空き店舗の活用件数	単位: 件	3 (過去5年間)	H26	5 (事業期間内5年間)	H31	21	R2
目標1: 「まちなか」へ誘導する「魅力」(ハード)の整備		キャニオンロード利用者数	単位: 台/12hr	182	H26	190	H31	344	R2
目標2: 「まちなか」へ誘導する「足」の整備		「まちなか」と行き来する参詣者数	単位: 人/12hr	812	H26	829	H31	1,825	R2
目標3: 「まちなか」へ誘導する「しかけ」(ソフト)の整備									


  




案内誘導サインの設置




※本計画では、白山比咩神社周辺から鶴来駅周辺を含む当整備計画区域(267.8ha)を「まちなか」と定義する。




旧加賀一の宮駅サイクリングターミナル整備




駐輪場の整備




旧加賀一の宮駅サイクリングターミナル整備



旧加賀一の宮駅周辺整備



市民広場の整備



表参道乗り入れ道整備

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか誘導の南の玄関口である旧加賀一の宮駅周辺の整備や国道157号からのアクセス道路の整備、サイクルツーリズムの促進等により、来訪者をまちなかへ誘導するハードや仕掛けが整えられた。</li> <li>・まちなかへ自転車利用者を呼び込むための駐輪場や旧加賀一の宮駅を活用したサイクリングターミナル、キャニオンロードの整備、案内誘導サインの設置により、自転車によるまちなか誘客が促進された。</li> <li>・旧加賀一の宮駅を活用したサイクリングターミナルや北陸鉄道石川線の廃線敷を活用したキャニオンロードの整備により、鶴来の地域資源を活かした魅力の向上とまちなかとの有機的連携が強化された。</li> <li>・白山比咩神社の表参道や旧加賀一の宮駅周辺を訪れる観光客等が増加している中で、前面道路の県道野々市鶴来線を通行する歩行者の安全確保や表参道周辺の駐車場不足の解消を図っていく必要がある。</li> </ul>
<p>今後のまちづくりの方策(改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴来のまちなか目抜き通りである鶴来本町通り線(鶴来街道)の整備促進を図るとともに、空き店舗の利活用を促進し、まちなかの魅力向上とあわせて来訪者のまちなか誘導に努めていく。</li> <li>・増加するレンタサイクル需要への対応や、まちなかにおける自転車通行環境を整えるとともに、地域の公共交通の確保、維持を図っていく。</li> <li>・鶴来のまちなかに息づく伝統文化やその周辺を取り巻く豊かな自然環境に磨きをかけて対外的に広く発信していく。</li> <li>・白山比咩神社の表参道や旧加賀一の宮駅周辺を訪れる観光客等の増加に対応し、その歩行環境や駐車環境の改善を図っていく。</li> </ul>

※ 本事後評価は、事業の年度繰り越しにより、令和2年度末時点での評価を行ったものであるが、事業効果は事業完了後に発現するものと捉え、目標値を据え置いて評価を行った。